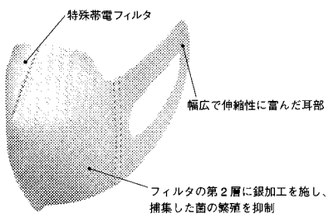
不織布のプロが作る
不織布マスクは、
ちょっと違う。

日本製

ここが違う！ 5つの「機能」のトータルバランスによる高性能マスク。

●「呼吸のしやすさ」と「捕集性能」を両立する特殊帯電フィルタを採用。
●呼吸のしやすいフィルタと「保型性」の高い不織布との組合せによって、マスクの変形を防ぎ、外気がフィルタ以外から入ることを大幅に低減。
●顔への「フィット性」が高い独自のマスク形状と、耳部に採用した幅広で伸縮性のある不織布で、耳が痛くなりにくい快適な「装着感」を実現。



フルシャットマスク® AG01　詳しくは、バイリーンクリエイト　オンラインショップ http://vicreshop.com/

製造元 日本バイリーン株式会社　販売元 バイリーンクリエイト株式会社　TEL.03-4546-1184

不織布のプロフェッショナル。 vilene 日本バイリーン株式会社　〒104-8423 東京都中央区築地5-6-4浜離宮三井ビルディング http://www.vilene.co.jp/

Etakは固定化できるエトキシシラン系の消毒成分です。

Etak

Etakは病原微生物を持続的にシャットアウト
洗っても落ちない抗菌・除菌バリアを作ります。

ご家庭でも簡単に抗菌防臭加工できます
（効果は1週間以上／洗濯耐性50回）

人と化学の未来をめざして マナック株式会社　広島県福山市箕沖町92番地
URL: http://manac-inc.co.jp/

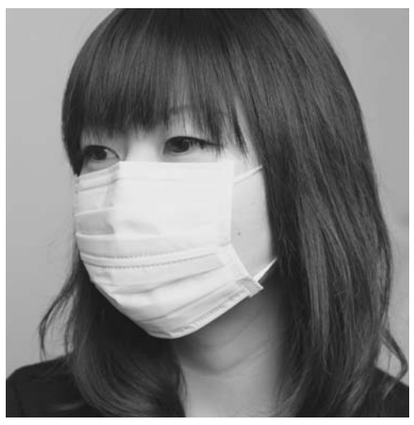
備えは常に－油断大敵

感染症・インフルエンザ対策

寒く乾燥した冬は、インフルエンザなどウイルス・細菌による感染症が勢いづく季節。2012―13年シーズンについては、これまで新型・季節性、いずれのインフルエンザも大流行の兆しは見られない。ただ、油断は禁物。2009年には豚由来の弱毒性インフルエンザが猛威をふるった。パンデミックとしては小規模だったとはいえ、全国で約200人が亡くなった。予防注射は重要。しかし、これだけで万全とは言いにくい。日常生活の中で予防を習慣化することもセルフディフェンスの面から大切だ。この冬、予防が手軽にできる製品が注目を集めている。

無理なく続く予防 大事

マスクの性能向上


顔の形に合ったマスクが望ましい

無理なく持続可能な予防方法としてベーシックなのは手洗い、うがい、マスクの着用。中でも、つり革を握ったり、あるいは自分の顔に頻繁に触れたりする手指の洗浄は、接触感染するインフルエンザの予防に欠かせない。つい指先だけで済ませてしまいがちが、政府広報HPに掲載のように、せっけんや手指消毒用アルコール製剤などを用いて指から手首まで丁寧に洗うのが正しいやり方。丁寧な手洗いはノロウイルス感染の予防にも有効とされる。ただ、あまり頻繁だと手荒れを招き、手の自己防衛力を削ぎかねないのが難しいところ。男性は忘れがちだが、保湿クリームなどの併用も大切だ。

インフルエンザウイルスは通常、鼻や喉から侵入・増殖する。喉の乾燥は粘膜の働きをにぶらせ、抵抗力を下げる恐れがある。うがいは感染を助長するほこりなどの洗浄に効果的で、喉の粘液分泌を助けるとも言われる。また、マスクは本人だけでなく周囲への感染予防にも役立つ。最近は種類も豊富になっており、ベテラン医師によると、「昔の薄いガーゼのマスクに比べると今のは性能が良くなっているので活用すべき」という。

予防には手首や指の間も忘れずに洗うことが大事

とはいえ、顔の形に合って鼻や口の周囲にすき間の出ないのが望ましく、使い捨てタイプの練り返し利用も厳禁だ。

近年の抗菌ブームも後押しとなり、抗ウイルスをうたう薬剤も相次いで登場。これらを繊維製品など日用品や自動車内装に応用した製品も増えている。衣類は安全性と繰り返しの洗濯に耐えることが求められるが、長期間の効果持続をうたう製品も出ており、抵抗力の劣る乳幼児のためのベビー用品や高齢者施設の家具類への応用がすすめられている。

一方、マスクやうがいなどでウイルスの侵入を防ぐだけでなく、体内に侵入した際の対策も打つ必要がある。口の中の健康に着目したインフルエンザウイルスの感染を防ぐ手だてとして、自己の免疫力を高めることは重要だ。免疫力といっても、体力アップなどの方法は急には難しい。食事など、毎日行うことを通じての方法が無理なく続けやすい。

乳酸菌で免疫力アップ

そこで、有効な対策として期待されるのが明治の1073R―1乳酸菌を使用したヨーグルト「明治ヨーグルトR―1」。発売以来話題を呼び、機能性ヨーグルトというカテゴリーを確立させつつある。

1073R―1乳酸菌は同社独自の乳酸菌で、ブルガリア菌の1種だ。同乳酸菌は、乳酸菌などの微生物が菌体外に産出する多糖体「EPS」を多く産出する。EPSは免疫向上に大きな役割を担う。

明治ヨーグルトR―1は、免疫機能の重要な部分を担うナチュラルキラー（NK）細胞を活性化する効果が実証されている。NK細胞はウイルス感染した細胞やがん細胞を見つけて攻撃・破壊する働きを持ち、NK細胞の活性が衰えると感染症にかかりやすくなる。また、動物実験ではインフルエンザウイルス（A型H1N1亜型）の抑制効果が確認された。

2010年には山形県舟形町と佐賀県有田町の保育園・幼稚園児、小中学生の約3000人に明治ヨーグルトR―1を継続的に提供し、健康状態を調査した。その結果、舟形町ではインフルエンザ感染症はゼロ、有田町は5人発症したものの集団発症には至らず、発症数は明らかに低かった。60歳以上を対象にした調査でも、風邪症候群の罹患リスクの低減効果が確認されている。

乳酸菌の新しい可能性を秘める機能性ヨーグルト。インフルエンザ感染症の予防の一助として、朝食にヨーグルトを食べる習慣が加わりそうだ。

機能性ヨーグルトが大人気

この冬注目！ 有力企業の製品＆技術（順不同）

日本バイリーン

日本バイリーンは空調フィルターや産業用防じんマスクで培った技術で開発したインフルエンザ感染対策用の高機能マスクの普及拡大を図る。

特殊帯電フィルターで菌を捕集し、第2層に施した銀加工で菌の繁殖を抑える仕組みの「フルシャットAG01」。

クラボウの抗ウイルス機能繊維加工技術「クレンゼ」は、日常生活での感染リスク軽減に役立つ画期的な技術。広島大学の二川浩樹教授らが開発した固定化抗菌成分「Etak（イータック）」の働きでインフルエンザウィルスを99%不活化。口腔用消毒薬がベースのため極めて安全で、大腸菌やマイコプラズマ、黒カビ、部屋干し時に衣類から出る悪臭源とされるモラクセラまで幅広く機能を発揮する。

クラボウ

クラボウは独自技術でEtakを繊維表面に固定化。素材本来の風合いを損ねず、高い耐洗濯性を実現した。繊維の種類も問わず、日用品、医療分野をはじめ幅広い用途展開が期待できる。

マナック

マナックは海水の苦汁（にがり）に含まれる「ブロム（臭素）」を中心としたハロゲン化技術をコアテクノロジーとして、電子・情報・医療といった先端技術産業に高度な機能性化学品を提供する「スペシャリティーケミカル」を展開している。

広島大学大学院医歯薬保健学研究院の二川浩樹教授とマナックで共同開発した固定化抗菌剤である「Etak（イータック）」は、衣類をはじめ車両等の抗菌処理にも採用実績があり、今後とも幅広い分野へ提供していく。